

「わたしは良い羊飼いで
ある」とイエス様は言われま
した。この御言葉を聞いた
当時の人々は、羊と羊飼
いの関係というのは、自分
たちと神様・イエス様との
関係を意味しているという
ことに気がついていたと思
います。つまり、このお話は、
牧師と信徒との関係のお話
ではなく、イエス様と私たち

羊飼いと羊の関係

司祭 ヨハネ 吉田 雅人

豊かに受けた命を呼ばれる

との関係のお話なのです。

では、それはどのような関
係なのでしょう。このこと
は、ヨハネ福音書10章1〜
10節に記されている、2つ
の聖句が特に明らかにし
ているように思います。

一人ひとりの名を 呼ばれる

一つは、「羊飼いは自分の
羊の名を呼んで連れ出す。
自分の羊をすべて連れ出す
と、先頭に立って行く。羊
はその声を知っているの
で、ついて行く」という言
葉です。羊飼いであるイエ
ス様は、羊である私たちの
名前を呼んでくださるのだ
と、イエス様は私たち一
人ひとりを知っておられる、

日本聖公会 神戸教区報

神のおとずれ

2010年 5月号

発行所 神戸教区事務所
TEL 078 (351) 5469
FAX 078 (382) 1095
<http://www.nskk.org/kobe/>

発行責任者 司祭 芳我 秀一

印刷所 文明堂印刷所

それもとてよく知ってお
れるというのです。

以前、私が勤務していた
教会には、クリスマスとイ
スターの祝会の時に、牧師
さんがそこに出席しておら
れる信徒の人たちの名前(フ
ルネーム)を一人ずつ呼ぶ
たそうです。この余興を始
められた方は、本当に聖書
をよく読んでおられたのでし
ょう。私にはとても合格でき
る自信はありませんでした
が。しかし、仮に牧師が
まだお名前を覚えきれてい
ない方がいらっしやうとし
ても、イエス様は私たちの
教会の一人ひとりの方を覚
えていてくださるのです。

名前を覚えてもらって
いるということ、これはとも
嬉しい事です。ある女性信
徒の方が『○○さんの奥さ
ん』ではなく、自分の名前
で呼ばれた時、本当に嬉し

かった」と言われたこと思
い起こします。肩書きや社
会的な地位が大切なのは
なく、一人の人間として呼
ばれることこそ、ありのまま
のあなたを愛し、大切な人
だと思っているという、明
確なしるしなのです。

豊かに命を受ける

に命を受けること」とは、
イエス様が病氣の人や売春
婦、心身に障がいのある人
など、罪人というレッテル
を貼られ、当時の社会の中
で生きる希望を見失ってい
た人々を訪ね、彼らをしっ
かりと立たせてくださったこ
とに現れています。

お互いの命を豊かに

もう一つの聖句は、「わた
しが来たのは、羊が命を受
けるため、しかも豊かに受
けるためである」という言葉
です。イエス様は、ご自身が
この世に来られた使命を、
明らかにしてくださいしてい
ます。イエス様によって「豊
かに命を受けること」、それ
は一人ひとりの人間が、命
を盗まれたり、屠られたり、
滅ぼされたりすることなく、
神様によって造られ、賜物
として与えられた人生を大
切に生きることでありましょ
う。生きていてよかったと思
える、感謝して生きる事が
できる、ということだと思
います。自分の人生や人格を
大切にしておられる方がお
られ、今以上に豊かにして
くださる方がおられる。「豊か

に命を受けること」とは、
イエス様が病氣の人や売春
婦、心身に障がいのある人
など、罪人というレッテル
を貼られ、当時の社会の中
で生きる希望を見失ってい
た人々を訪ね、彼らをしっ
かりと立たせてくださったこ
とに現れています。

(ウィリアムス神学館館長)

見直そう！ 宣教。教会活動

司祭 オーガスチン 小林尚明

広島復活
教会ホーム
レス支援

いて学び、教会の活動を見直す」に決まりました。

広島復活教会では、昨年の8月から教会隣接の公園でホームレスの人たちへの炊き出しを行っています。その経緯と活動についての報告を少しまとめてみました。

反省と学び

近年、日本聖公会では信徒の減少、教会の活動の低迷が言われています。

この状況の打破を願って、昨年、復活教会の努力目標を「福音宣教と教会の働きにつ



2月28日の炊き出し会。人たちの向こうが広島復活教会。

「キリスト教の原点」を信徒の方々と共に読み、百瀬神父ご自身にもお越し頂き、「福音宣教と教会の働き」について研修会を開き、「教会は希望を語らねばならない」ことを学びました。

また1988年、ランベス会議報告書を読み返して、教会の宣教が福音伝道だけでなく、「人のニーズに愛の奉仕をもって仕えること。社会の不公平な機構を改革するように努める事」とあるのを発見して、それが大きな学びとなりました。

夜回りの会

この会は、正式名称を「野宿労働者の人権を守る広島夜回りの会」と言い、ホームレスの人たちへの支援組織です。その代表を、広島平和礼拝や、カトリックと聖公会合同の巡礼旅行のお世話をしてくださった肥塚倅司神父(カトリック広島教区付)が務めておられ、私も昨年1月からお手伝いをさせていただいています。



アットホームで笑顔溢れる炊き出し会でした。

韓国スタディ・ツアー

昨年6月、管区主催の韓国スタディ・ツアーに参加し、大韓聖公会の地域宣教の活動を見学しました。

そこで「いと小さき者に仕える」事こそ、教会がなすべき宣教であると学び、「タシソギ(再起)・センター」でのホームレスの人たちへの給食奉仕に参加しましたが、その給食(ビビンバ、味噌汁など)のおいしさに驚かされ、広島で配っているおにぎりがみずばらしく感じてしまいました。

炊き出しスタート

今年も肥塚神父の指導により、五島列島の巡礼に参加しましたが、その反省会の場で、韓国での体験を紹介し、夜回

りの会より、もっと美味しい食事を提供できないかとお話しました。

それではひとつやってみますか、ということになって、8月30日(日)から、この炊き出しがスタートしました。

ですから、この活動の最初の奉仕者は、五島列島巡礼に参加したグループです。

そして、1回目はカレーライスを提供する事にして、チラシを夜回りの会の人たちにも手伝ってもらって配り、約65人が来られました。

想定外の協力

これは想定外だったのですが、近所から苦情がきてはいけないということで、近隣マンションにチラシを持って行き、ご理解を求めたのですが、「どこから資金が出ているのか」と尋ねられ、「信徒の募金です」と言う、「私も寄付させてください」と献金された方、また当日、エプロン持参で「こういう活動に興味があります。手伝わせてください」という方も現れました。

さまざまな人々の

活動と共に

こうした活動で、ホームレス問題が解決するのかという批判もあるかも知れませんが、

しかし、こうした支援は、夜回りの会だけでなく、さまざまな人たちも活動しており、その中であって、私たちクリスチャンが出来ることを少しでも行うことが大切なのではないかと考えています。

ただ、復活教会の宣教活動は、この他にも日本キリスト教海外医療協力会への使用済み切手収集送付。アルディナウペポ(東アフリカの子どもを救う会)への協力、高齢者施設への奉仕などがあります。そうした活動の延長線上にこのホームレス支援もあるのです。(広島復活教会牧師)

教会横の公園で メニューはカレーライス

春の気配が感じられる2月28日、復活教会横の上織町公園を会場に、60人余りの路上生活者が集まり、炊き出し会が行われました。

今回のメニューはカレーライス。過去3回の経験が生かされ、手際の良い準備で、また参加者自身も手伝い、支援する・されるという状況から一歩踏み込んだ、アットホームな「食事会」が開かれました。

この関係は、定期的な炊き出しの(3ページ下へつづく)

明石マリア・マグダレン教会 宣教拠点新装成る

教区外からの来賓もあり、参列者は110人でした。

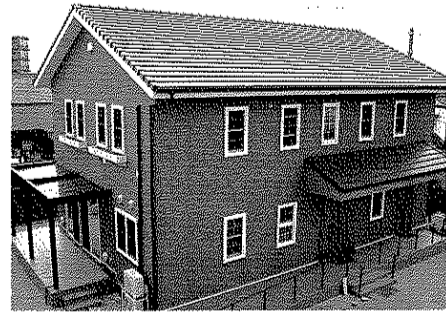
2月13日(日)午後1時から、中村豊教区主教の司式により、明石聖マリア・マグダレン教会の会館・牧師館落成式が行われました。また、建築施工された木村誠氏、建築アドバイザー宮協眞壽氏に感謝状が贈られました。

落成式には教区内はもちろん、北関東教区からは、草津のハンセン病救済事業に多大な貢献をされたコーンウォールリー師を覚え、広田勝一主教、松浦信司祭など、



教区内外から110人の参列者が集まり、落成を祝いました。

落成式に続き、そのリー師の名を冠した会館、さらに牧羊幼稚園設立者であるシェパード師の名を頂いたホール、そして、牧師館が参列者に公開されました。その後、園舎で祝賀会開催。中村主教の「新施設を宣教拠点として頂きたい」との挨拶をはじめ、北関東教区の広田主教や松浦司祭、コーンウォールリー師関係者、また、西川正文司祭や明石教会の歴代牧師と家族そして伝道区内信徒から数多くの祝辞が述べられました。少年時代を明石で過ごした八代智司祭は、「旧牧師館は自分の少年時代、すでに友人から『お化け屋敷』と呼ばれていた。それが今は教区随一お洒落な『異人館』です」と、落成のお祝いを述べられました。



会館・牧師館 全景

思っている」と述べ、また、婦人会長の東郷弘子姉は、「教会行事の際、今まで幼稚園に迷惑をかけて心苦しかったが、これからは思う存分、色んなことを計画して行きたい」と、それぞれに喜びと意欲を語られていました。

祝賀会は、角瀬克己司祭とオリアナ・コンソルテの演奏が華を添えるなか、和やかに進み、最後に、司会の大東康人教会委員が、参列者への謝辞と共に、建築献金目標達成のために教区の皆様の協力を続いて仰げれば感謝ですとのお願いを述べられて、午後4時に閉会しました。

(小南記)

(2ページからのつづき) 開催や夜回りなどから得られたもので、私の知る限り、これほど和やかに暖かきを感じる集いはありませんでした。路上生活の現実を厳しく、参加された多くの方は、職に就けない土日には、食事も満足に摂れず、もっと会を開いて欲しいと要望されていました。また嬉しい事は、毎回多数の中高生たちが奉仕してくれていることです。彼らは、楽しく、よい経験で今後も続けていきたいと語っていました。

(坪井記)

神戸教区婦人会 黙想会開く 今、何を為すべきか?

感じ、初めてこのような会を企画したとのこと。

2月23日(火)〜24日(水)、カトリックの『宝塚黙想の家』で、教区婦人会の黙想会が開かれました。婦人会も、年とともに高齢化が進んでいます。そこで、今一度、原点に立ち返るべく、大斎節に当たり、静かに「今、私たちに何が求められているのか。今、私たちは何をすべきなのか」を神さまから聴く時間を持つ必要を感じ、初めてこのような会を企画したとのこと。



黙想会には、神戸教区の11教会から25人が集まり、山野上素充司祭(大阪教区守口復活教会牧師)に黙想指導をして頂き、米子聖ニコラス教会の澄田悦子さんから「婦人会ー今と昔ー」のテーマでお話をさせて頂きました。参加者は、「生かされている」と、そして「いつかはこの命をお返しする」とお話し、「今、私たちがすべき事はなにか?」ということを感じ巡らせていきました。(中原記)

鳩だより

(敬称略)

ご逝去

2月1日(月)

エステル 佐野 怜子(57歳)

岡山聖オーガスチン教会

2月1日(月)

ペテロ 勝部 文男(80歳)

松江基督教会

2月5日(金)

ヨセフ 湯村 吉夫(97歳)

富岡キリスト教会

2月9日(火)

ルツ 谷門 美代(92歳)

下関聖フランシス・ザビエル教会

次号予定

巻頭司祭 吉田 雅人
司祭按手式
中高生大会準備会報告、ほか。

5月の教区関係教役者 逝去記念聖餐式

日時 2010年5月6日(木) 午前10:30
場所 神戸聖ミカエル大聖堂
司式 主教 中村 豊
説教 司祭 原田 佳城

※ 5月の記念逝去教役者

2日	司祭	覚前 政蔵
5日	宣教師	ヴァイレット J. ヘッド
6日	司祭	吉本 要太郎
10日	司祭	フランク ウェストン
14日	伝道師	マリア 松山 初子
16日	司祭	パウロ 韓 浩
19日	主教	パウロ 八代 欽一
22日	司祭	ペテロ 長澤 四郎
24日	司祭	ヨハネ 村上 豊吉
24日	司祭	パウロ 大塚 馨
26日	司祭	末好 萬吉
28日	司祭	バルナバ 興賀田千秋
29日	司祭	アーネスト G. ハッチンソン
30日	宣教師	メイブル C. バーグス

日時: 5月3~5日(月) 水
場所: 倉敷伝道所
聖書 林和広司祭
☎ 083-423-0838

概要: 青年による発題を中心
に「キリストの平和」を分かち合います。

神戸教区青年の集い 「キリストの平和」

【主なプログラム】

- ① レクリエーション
 - ② 永野拓也兄の発題
 - ③ 広瀬愛理姉の発題
 - ④ バイブルシェアリング
林 和広司祭
(ヨハネ 20:19)
 - ⑤ 振り返り
- 参加申込先: 永野拓也
☎ 090-9618-8541 下記へ
(申込締切: 4月25日)

E-mail: takuya0323ngano@yahoo.co.jp

Q 「イースター」って何ですか?

A イエス・キリストの復活を記念する祝日で、「復活日、また復活祭」と呼んでいます。日本では、クリスマスがキリスト教の祝日として有名ですが、本当はイースター(復活祭)の方がキリスト教の中心的な祝日です。英語の「イースター」という名称は、古いヨーロッパの「春の女神」の祭に由来しますが、キリスト教がヨーロッパに伝えられた後、その春の訪れを告げる祭に、イエス・キリストの復活という新しい意味が与えられました。

☆
Q 「イースター」は、毎年、いつあるのですか?

A イエスの復活は、ユダヤ教の逾越祭に続く「週のはじめの日(日曜日)」の出来事でした。この逾越祭は、太陰暦に従っていて、春分の日(3月21日)の後の満月の夜に行われました。そこで復活祭も、それに続く日曜日と決められました。ですから3月から4月の間で、毎年、日は変わりますが、曜日は必ず日曜日です。

☆

Q 「イースター」がなぜ、中心的なのですか?

A イエス・キリストの受難の死と復活こそが、キリスト教にとって最も大切な教えだからです。私たちは死を恐れ、しかも死は避けられません。キリスト教では、死は罪の結果であること、そしてイエスの死は私たちの罪を赦すため

得できる説明はできません。信じるか否かだけです。しかし、イエスの十字架の死を目の当たりにして逃げ去った弟子たちが、復活したイエスに出会ってからは、まるで人が変わったように、イエスがキリスト(救い主)であると大胆に証し始めたこと、イエスの復活した「週のはじめの日(日曜日)」を、「主の日」として礼拝を守るようになったことなどから、弟子たちに何か強烈な印象を与える出来事があったことが分ります。

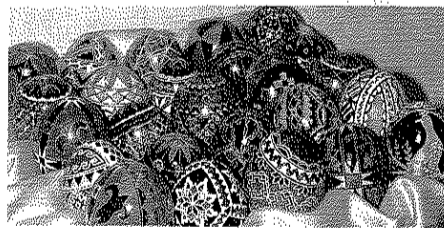
☆

Q イースターの習慣にはどんなものがありますか?

A 「イースター・エッグ」の習慣があります。古代より卵は生命を生み出すものとして尊ばれ、また、死んでいるように見える卵から新しい生命が誕生するのは、キリストの復活を表すのにふさわしいと考えられました。そこでヨーロッパでは、復活日に卵に絵を描いたり、色で染めたものをプレゼントしたり、またそれを隠して探すゲームなどが行われます。

キリスト教入門 Q&A

執事 イサク 坪井 智



の「身代わりの死」であり、その死によって私たちの罪が赦されたこと、そしてイエスの復活によって、私たちにも永遠の命が約束されていることを教えています。

☆

Q 「復活」は本当にあった出来事なのですか?

A 「復活」について、科学的に納